

P-1-5

中医体質と最終糖化産物 AGEs 関連皮膚蛍光との関係

Correlation between Traditional Chinese Typology and AGEs related skin auto-fluorescence

許 鳳浩^{1,3)}, 上馬場 和夫^{2,3)}, 浦田 哲郎³⁾
Feng Hao Xu^{1,3)}, Kazuo Uebaba^{2,3)}, Tetsuro Urata³⁾

- 1) 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床研究開発補完代替医療学講座
- 2) 帝京平成大学ヒューマンケア学部東洋医学研究所
- 3) 医療法人ホスピター浦田クリニック統合医療研究所

AGEs related skin auto-fluorescence has been used as a valuable method to estimate AGEs deposit in our body. The correlation between Traditional Chinese Typology and AGEs related skin auto-fluorescence was assessed in 45 subjects (27 males of 23±4 y.o. and 18 female of 23±3 y.o.). Yang deficient constitution showed negative correlation (female), and Dump heat constitution showed positive correlation with AGEs related skin auto-fluorescence (male). Biochemical meanings in the Chinese Typology were supported.

【背景と目的】

老化や未病の病態にAGEs（最終糖化産物）が関与することが認識されてきた。蛍光を発するAGEs関連の皮膚蛍光を測定することで体内のAGEs蓄積を推測する機器が開発されてきた。我々は、AGEs皮膚関連蛍光が真皮のインピーダンスと相関することを報告したが、中医体質との関係性を調査することで中医体質の生化学的意味を考察した。

【対象と方法】

対象者：鍼灸大学2-4年生の健常志願者45名（男性27名、女性18名、年齢：男性23±4歳、女性23±3歳、BMI：男性24±3、女性22±4）から、文書による同意を取得後、以下の5つの検査を行った。1) 中医体質分類法（王&朱ら）による問診票、2) 心理学的検査：POMS、SF-36-v2、3) 生理学的検査：橈骨動脈圧脈波測定、心拍変動解析による自律神経機能検査、4) 四診による経絡の実虚の判定、5) 皮膚のAGEs関連蛍光：紫外線A(350nm)の励起光を放射し420nmの蛍光を、12各経絡の皮部で、日焼けや毛髪のない皮膚を選んで測定。統計解析：皮膚AGEs関連蛍光と各種パラメーターとの相関係数を、解析ソフト（SPSS-v11）を用いて計算。有意水準は0.05。倫理的配慮：医療法人の倫理委員会の審査を得た。

【結果と考察】

皮膚AGEs関連蛍光には年齢差があるが、同じ年齢の男女で有意な性差を認めた。さらに、中医体質と皮膚AGEs関連蛍光との相関関係では、女性では陽虚質だけと有意な逆相関が、男性では湿熱質だけと有意な順相関を認めた。また、上肢の陰・陽経のAGEs蛍光比は、男性は湿熱質と、女性是不安緊張得点と有意な相関性を示した。内皮細胞などの細胞膜RAGEと結合して炎症を促すAGEsの作用から説明しうる結果であった。

【結語】

中医体質と皮膚AGEs関連蛍光との関連性が示されたことから、中医体質の生化学的解明にAGEsの研究が役立つ可能性が支持された。